

平成30年 業種別労働災害発生状況

(平成30年7月末現在)

室蘭労働基準監督署

区分 業種別	平成30年			平成29年同期			対前年		業種割合	平成29年確定値		
	死亡 []内は 転倒災害	休業 []内は 転倒災害	合計 []内は 転倒災害	死亡 []内は 転倒災害	休業 []内は 転倒災害	合計 []内は 転倒災害	増減数	増減率		死亡	休業	合計
全産業合計	2	131 [55]	133 [55]	4	106 [44]	110 [44]	23	20.9	100.0	6	224	230
製造業	2	12 [3]	14 [3]	1	20 [4]	21 [4]	-7	-33.3	10.5	1	41	42
食料品	1	4 [3]	5 [3]		4 [3]	4 [3]	1	25.0	3.8		12	12
木材木製品					1	1	-1	-100.0			1	1
窯業・土石		1	1		2	2	-1	-50.0	0.8		3	3
鉄鋼業	1	3	4	1	3	4			3.0	1	5	6
金属・機械		2	2		3	3	-1	-33.3	1.5		5	5
輸送用機械		2	2		2	2			1.5		4	4
その他の製造業					5 [1]	5 [1]	-5	-100.0			11	11
鉱業・土石採取業								-				
建設業		15 [2]	15 [2]	1	12 [3]	13 [3]	2	15.4	11.3	2	31	33
土木工事業		2	2	1	4 [1]	5 [1]	-3	-60.0	1.5	1	10	11
建築工事業		11 [2]	11 [2]		7 [2]	7 [2]	4	57.1	8.3	1	18	19
木造建築業		1	1		1	1			0.8		3	3
その他の建設業		1	1				1	-	0.8			
道路貨物運送業		9 [2]	9 [2]	1	12 [3]	13 [3]	-4	-30.8	6.8	1	22	23
その他の運輸業		9 [6]	9 [6]		5 [1]	5 [1]	4	80.0	6.8		6	6
陸上貨物取扱業								-				
港湾運送業		1	1				1	-	0.8		1	1
林業				1		1	-1	-100.0		2	1	3
漁業		2	2				2	-	1.5		2	2
卸売・小売業		27 [16]	27 [16]		17 [10]	17 [10]	10	58.8	20.3		33	33
社会福祉施設		11 [5]	11 [5]		9 [5]	9 [5]	2	22.2	8.3		17	17
旅館業		13 [7]	13 [7]		5 [4]	5 [4]	8	160.0	9.8		12	12
清掃業		11 [5]	11 [5]		6 [4]	6 [4]	5	83.3	8.3		14	14
上記以外の事業		21 [9]	21 [9]		20 [10]	20 [10]	1	5.0	15.8		44	44

本統計は、労働者死傷病報告(休業4日以上)により集計したもので、[]内の数字は、転倒災害の件数で内数です。

本統計は、速報値であり後日修正されることがあります。

本統計は、北海道労働局ホームページからダウンロードできます。

○ 労働災害増加中！

平成30年7月末現在において、前年同期と比べて23件(20.9%)増加しております。特に第三次産業の労働災害が増加しており、その中でも卸売・小売業及び旅館業における労働災害が大幅に増加しております。転倒災害が多いことから、通路等の段差の解消、履き物の変更等、転倒災害の防止に係る対策を進めてください。

- 平成30年5月から9月まで「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」期間中です。熱中症防止対策を重点的に進めましょう。



平成30年7月末 死亡労働災害事例

番号	発生日	時刻	業種	事故の型	起因物	災害の状況
1	1	17時台	製造業	墜落、転落	構築物	被災者は、屋外の集積場において、原料を放水により、水路に落とし込む作業を行っていたところ、何らかの要因で水路に転落し、水路を流れている原料に押され、柵と原料との間に挟まり、窒息により死亡したものの。
2	3	8時台	製造業	巻き込まれ	コンベヤー	被災者は、原料破砕設備において、同僚と共に始業前の点検を行っていた。同僚のオペレーターがベルトコンベヤーの可動スイッチを順次入れた際、操作盤に異常が表示されたため、可動スイッチを切って確認に向かったところ、ベルトコンベヤーに挟まれた被災者を発見したものの。

平成29年 死亡労働災害事例

番号	発生日	時刻	業種	事故の型	起因物	災害の状況
1	1	11時台	道路貨物運送業	交通事故	トラック	被災者は、トレーラーの積み荷を下ろした後、国道を走行していた際、路面が凍結していたため、スリップして対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトレーラーに正面衝突したものの。 相手方のトレーラーの運転手も膝や肩等を骨折する重傷。
2	2	9時台	鉄鋼業	有害物との接触	有害物	被災者は、製鋼製造工程で発生するダストの無害化処理を行うため、薬品を使用し、作業していたところ、何らかの理由により、別の薬品が混ざり、発生した硫化水素にばく露され、硫化水素中毒(疑い)になり、死亡したものの。
3	4	13時台	林業	激突され	立木等	被災者は、木を伐倒した後、退避していたところ、伐倒した木が跳ねて退避していた被災者に激突し死亡したものの。 なお、伐倒した木(樹高約25メートル)の下敷きになっているところを発見されたもの。
4	4	14時台	建設業	崩壊、倒壊	立木等	被災者は、伐倒する木(樹高約7メートル)にチェーンソーで切り込みを入れた後、木にかけていたワイヤーロープで引いて倒す予定であったため、引く方向とは別の方向に退避していたところ、木がミシミシと音を立てて被災者側に倒壊し接触。外傷性ショックにより死亡したものの。
5	10	10時台	林業	崩壊、倒壊	立木等	被災者は、チェーンソーで立木を伐倒していたとき、近くの立木にかかっていたかかり木が外れ、被災者に激突した。被災者は、木の下敷きになり、全身を強く打ち、多発外傷により死亡したものの。
6	11	11時台	建設業	崩壊、倒壊	階段	被災者は、同僚と建築物の解体工事を行っていたとき、何等か理由で既設の地下1階部のコンクリート製の階段の裏に入場していた際、階段が倒壊した。その下敷きになり外傷性ショックにより死亡したものの。